

生命保険文化センター

2023年度 活動のあらまし

Japan Institute of Life Insurance

 公益財団法人 生命保険文化センター

< July 2024 >

目 次

ごあいさつ	2
事業の概要	3
2023年度 トピックス	4～5
消費者啓発・情報提供活動	6～14
学術振興事業	15～18
調査・研究活動	19～20
役員・組織図、活動小史	21
財務諸表	22
会員会社	裏表紙

記載対象期間

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

※一部、2022年度・2024年度の活動内容も記載しています。

ホームページ

当センターホームページでは生活設計情報、生命保険のしくみ等、充実したコンテンツを公開しています。あわせてご利用ください。

<https://www.jili.or.jp>

生命保険文化センター

検索



2015年に国連で採択されたSDGsでは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。生命保険文化センターは、すべての人が、社会保障制度や生命保険の役割を理解し、生活設計を通して将来起こりうるリスクについて自身で考え、備えることができるように公正・中立な立場から情報提供をしています。

ごあいさつ



評議員会会長
家森 信善



代表理事
浅野 僚也

当センターは1976年の設立以来、生命保険制度の健全な発展のために、広く関係する消費者啓発・情報提供活動や、学術振興事業、調査・研究活動を行ってまいりました。本冊子では、2023年度における当センターの様々な活動をご紹介します。

「消費者啓発・情報提供活動」においては、自助・共助・公助や民間保険、リスク管理等といった中学校・高等学校の新学習指導要領の内容及び成年年齢引下げを踏まえ、中学生・高校生・大学生向けの生活設計・生活保障教育の拡充に努めてまいりました。また、例年実施しております「中学生作文コンクール」においては、動画提供や中学生向け授業の活用等を通じ、更なる普及・浸透を図りました。引き続き、オンラインなどを活用し、生徒・学生からシニア層までの各世代に対応した教育・啓発に取り組むとともに、ホームページや小冊子に加え、YouTubeやX(旧Twitter)といったSNSを活用し、最新情報の提供にも努めてまいりました。

「学術振興事業」においては、研究会運営や研究助成等の研究者への支援を通じて、生命保険に関する研究の活性化に注力しました。2023年4月には、多様なライフコースを前提とした生命保険の役割等を幅広く検討する特別研究会「家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会」を発足させました。また、保険学セミナー等を開催・運営し、学術交流の促進に取り組んでまいりました。

「調査・研究活動」においては、第2回「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査」の調査結果や分析結果を公表しました。また、2024年度に実施する「生命保険に関する全国実態調査」の調査内容の検討・調査票の策定を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から今日に至るこの数年間で社会が大きく形を変え、働き方などのライフスタイルも変化と多様化を繰り返しています。また、相次ぐ自然災害や長期化する国際紛争が社会経済に与える影響が大きなものとなっていることに加え、人工知能や情報通信技術の更なる普及・複雑化が進んでおり、ライフステージや社会情勢に応じ、各自が金融リテラシーを高めつつ柔軟にリスク管理・生活設計を行う必要性が高まっています。

このような中、当センターにご期待いただく役割はますます重要になっていると認識しております。容易に先が見通せない時代ではありますが、このような社会の変化に柔軟に対応しつつ、引き続き、生命保険制度の健全な発展のため上述のような諸事業を行い、国民生活の安定向上、国民の利益の増進に寄与してまいります。

本冊子が、当センターの活動に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

事業の概要

活動目的

生命保険制度の健全な発展のための諸事業を通じて、国民生活の安定向上、国民の利益の増進に寄与する。

【消費者と生命保険業界の相互理解の促進】



当センターでは、「消費者啓発・情報提供活動」「学術振興事業」「調査・研究活動」の3つを柱に公益事業を行っています。

1. 消費者啓発・情報提供活動

6～14ページ

消費者が個々の生活設計の中で生命保険を適切に利用できるよう、生命保険学習会や小冊子、ホームページ等、多様な方法で生命保険に関する啓発活動や情報提供活動を行っています。

- 中学生作文コンクール
- 教員向け活動
- 生徒・学生対象の生命保険実学講座
- 消費者対象の生命保険学習会
- 学校教育用副教材の提供
- 消費生活相談員等への情報提供(勉強会の実施等)
- 消費者団体等との連携・交流
- 出版活動(小冊子による情報提供)
- ホームページによる情報提供
- 動画・X(旧Twitter)による情報提供
- 相談対応

2. 学術振興事業

15～18ページ

生命保険に関する学術振興のために、各種研究会の運営・研究助成等を行っています。

- 学識者・専門家等をメンバーとする生命保険に関する研究会の運営
- 若手研究者の育成のための研究助成
- 学者・研究者・専門家向け学術書籍の発行・ホームページへの掲載

3. 調査・研究活動

19～20ページ

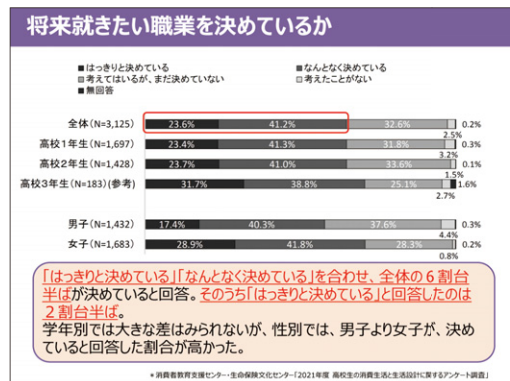
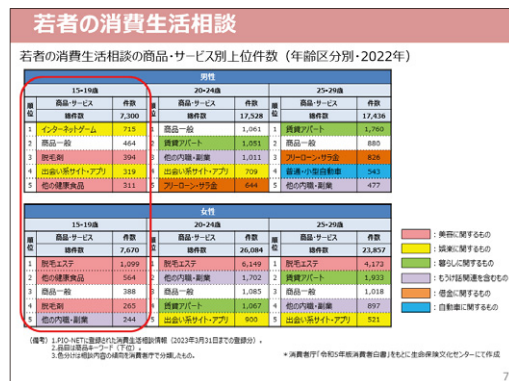
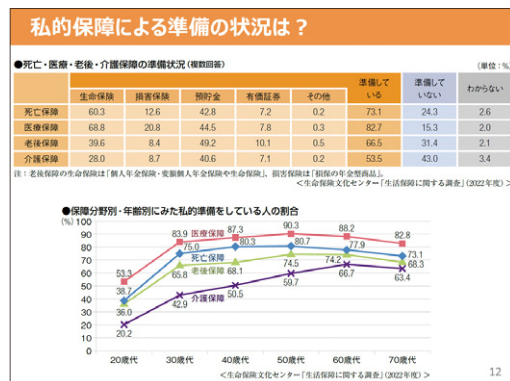
生活保障に対する意識や生命保険の加入状況等を各々3年ごとに調査し、情報提供しています。

- ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査
- 生活保障に関する調査
- 生命保険に関する全国実態調査(2024年度実施予定)

2023年度 トピックス

■参考スライド集の作成

講義展開を自由にカスタマイズできるよう、中学校・高等学校向けの各種副教材（P8掲載）を補足する形で、「生命保険、社会保障制度、資産形成、働き方・キャリア、契約・消費者トラブル」の計5種類の参考スライド集を新たに作成しました。



参考スライド集はこちら



■保険教育に関する包括連携協定の締結

2023年11月に、生命保険協会及び日本損害保険協会と、「保険教育に関する包括連携協定」を締結しました。ライフプラン等を踏まえたリスクに対する自助努力の重要性を学ぶための保険教育について、密接に相互連携及び協働して取り組むことで、保険分野における金融リテラシー向上を図ることを目的としています。

本件に関する
プレスリリースはこちら



主な取組みとして、各地の教員が所属する研究会等からの要請に応じて、生命保険文化センター・日本損害保険協会から職員を講師として派遣し、限られた授業時間の中で保険をどう教えたら良いのか、生命保険・損害保険それぞれの副教材の活用方法及び周辺知識について解説しています。

また、各都道府県にある生命保険協会地方事務室と連携し、各地の教育委員会や教員が所属する研究会等に対して、きめ細やかな案内活動を実施しています。



2023年8月1日開催
大分県高等学校教育研究会家庭科部会研修会

2023年度 トピックス

■家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会発足

多様なライフコースを前提とした生命保険の役割、市場、商品や加入経路等の変化を捉えるべく、代表的な標準モデルではない層(生涯独身者や離別者など)にも着目し、必要とする保障や支援について幅広く考えることを目的に、「家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会」が2023年4月に発足しました。

座長 山田 昌弘氏(中央大学文学部教授)

■第2回「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査」報告書発行

多様化する長寿社会に対する高年齢層の考え方、生活の実態・意向等を把握し、これからの長寿社会のあり方を検討することを目的に、2020年から実施している調査です。(P19掲載)

2023年4～5月にアンケート調査を実施し、12月に報告書を発行しました。(A4判、235ページ、頒価2,200円 税込)

■公開講演会 開催

一般消費者及び生命保険業界関係者を対象に、生命保険及び関連分野に関する動向などの情報提供を目的として、公開講演会を開催しています。

今回は2024年1月に学習院大学教授・一橋大学名誉教授の守島 基博氏に「人的資本経営の真意と企業が採るべき人事戦略」をテーマにご講演いただきました。(P17掲載)



消費者啓発・情報提供活動

生活設計・生活保障に関する教育活動

●中学生作文コンクール

暮らしと生命保険との関わり、あるいは生命保険を通じて感じた家族のあり方などについて、中学生自身の目で見たり、聞いたり、考えたりしたことを、作文という形で文章に表現する能力を養うことを目的に、文部科学省・金融庁・全日本中学校長会の後援、生命保険協会の協賛をいただき、「わたしたちの暮らしと生命保険」を課題に作文コンクールを実施しています。本コンクールは1963年に開始し、2023年度に61回目を迎えました。2023年度は全国約1万校の中学校のうち、813校から26,221編の応募がありました。1963年度の第1回からの応募総数は110万編を超えています。

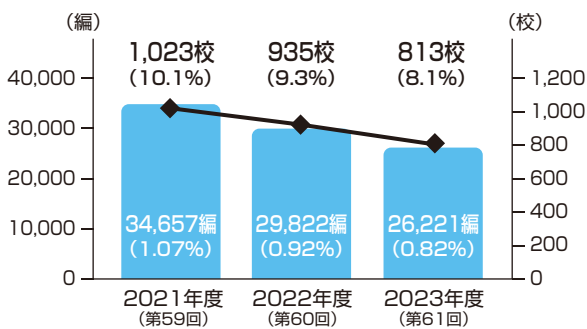
第61回(2023年度)全国賞入賞者			
●文部科学大臣賞			
福岡県	東福岡自彊館中学校	3年	清武 琳さん
●全日本中学校長会賞			
北海道	藤女子中学校	1年	前田 海音さん
●生命保険文化センター賞			
宮城県	宮城県仙台二華中学校	3年	今野 花香さん
●優秀賞			
青森県	三沢市立堀口中学校	3年	山本 柑奈さん
秋田県	能代市立能代南中学校	2年	若松 空さん
福島県	福島大学附属中学校	1年	西形 花璃さん
東京都	東京大学教育学部附属中等教育学校	1年	蔭山 彩綺さん
鳥取県	鳥取大学附属中学校	2年	角谷 夏希さん

入賞作品は、当センターホームページでご覧いただけます。



第61回文部科学大臣賞
福岡県 東福岡自彊館中学校 清武 琳さん
『いつか「その時」がきても』

中学生作文コンクール応募状況



* 白抜き文字は応募編数
* 応募校数の()内は全国中学校数比、
応募編数の()内は全国中学校生徒数比。

中学生作文コンクールサポート動画

作文への取組みをサポートする6つの動画を公開しています。

動画③ 自分の将来とどう関係しているんだろう？



中学生作文コンクール
サポート動画特設サイトはこちら



●教員向け活動

・「教員対象セミナー」の開催

生活設計における保険の役割について理解を深め授業に役立てていただくため、全国の中学校・高等学校の家庭科教員及び社会科・公民科教員を対象に、会場参加とオンライン参加併用でセミナーを開催しています。

☆2023年度 東京で2回(家庭科向け、社会科・公民科向け)、大阪で1回(家庭科向け)開催、計137名参加

*日本損害保険協会と共催

・教員対象勉強会への講師派遣

各地の教員が所属する研究会等からの要請に応じて、副教材の活用方法及び社会保険・生命保険に関する内容をテーマとする勉強会に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2023年度 3回開催、100名受講

消費者啓発・情報提供活動

●生命保険実学講座

中学校、高等学校、大学、短期大学、専門学校の生徒・学生に、生活設計・生活保障に関する基礎知識を学ぶ機会を提供することを目的に、教員の協力を得て講義時間の一部を利用して、当センター職員が講師となり無料で講義を行っています。

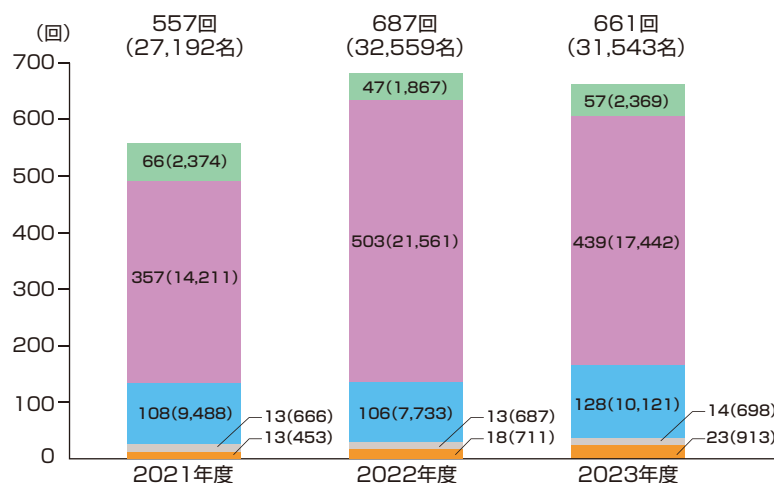
☆2023年度 25中学校、109高等学校、82大学、12短期大学、17専門学校、計245校で661回開催、31,543名受講

※245校で661回開催した生命保険実学講座のうち、オンライン講座は28回、オンデマンド講座は73回実施

※実施校(直近5年分)についてはホームページでご覧いただけます。



生命保険実学講座 開催回数・受講者数



	開催回数
中学校	■
高等学校	■
大学	■
短期大学	■
専門学校	■

* ()内は受講者数

《テーマ例》 「生活設計とリスク管理」「人生100年時代に必要な備えとは?」「成年になるということ」「事例から考えるリスクマネジメント」「自助・共助・公助について考えよう」等

《受講者の感想》 *一部抜粋で記載

- ・「生活設計やリスク管理について学び、自分の将来について改めて考えるよい機会となった。」
- ・「必要な保障は人それぞれなので、生活設計をしっかりと考えることは大切だと思った。」

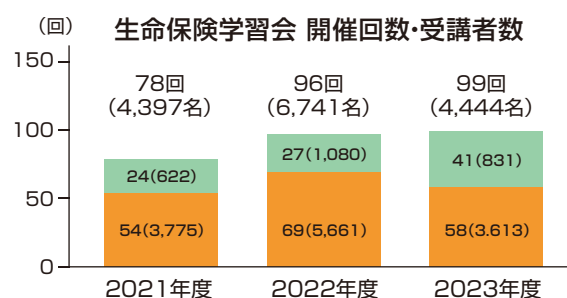
●生命保険学習会

全国各地の消費者行政機関や企業・官公庁等からの要請に応じて、生命保険の適切な利用方法や生活設計、年金・医療等をテーマとした学習会、研修会等に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2023年度 99回開催、4,444名受講

※99回開催した生命保険学習会のうち、オンライン講座は15回、オンデマンド講座は5回実施

※消費者向けの学習会講師派遣先(直近5年分)についてはホームページでご覧いただけます。



対象者	開催回数
消費者向け	■
従業員・職員向け	■

* ()内は受講者数

生命保険学習会では、「生命保険の契約にあたっての手引」「保険金・給付金の請求から受取りまでの手引」を配布し、生命保険の理解促進に努めています。

*これらの手引はホームページでご覧いただけます。



講師派遣(オンライン講座・オンデマンド講座を含む)のお申込みは

ホームページの「講師派遣のご案内」コーナーから、「WEB申込」または「講師派遣申込用紙」でお申込みいただけます。会場への講師派遣とあわせて、Zoom等を活用した双方向によるオンライン講座や講義を収録した動画を提供するオンデマンド講座も実施しています。

お問い合わせ TEL(03)5220-8517 講師派遣担当まで(9:00~17:00 土・日・祝日、年末年始を除く)

●学校教育用副教材

中学校・高等学校・大学向けの副教材を作成し、希望する学校に無償で提供しています。

*プレゼンテーション資料に生徒用ワークシートと50分授業展開案をセットにしてホームページで提供しており、ダウンロードもできます(該当資料は★印)。また、参考スライド集(P4掲載)を使い、各種副教材を自由にカスタマイズすることができます。

<中学校向け>	<高等学校向け>	<大学向け>
【冊子】 「生命保険って何だろう?」 (B5判、30ページ) ☆2023年度 提供部数 53,546部	【冊子】 「君とみらいとライフプラン」 ・生徒用ワークブック(B5判、26ページ) ・教員用手引き(A4判、32ページ) ☆2023年度 提供部数 127,329部(生徒用ワークブック) 1,421部(教員用手引き)	【冊子】 生活設計とリスク管理
【家庭科等向け】 ★「リスクに備える」 【社会科向け】 ★「人生100歳時代に必要の備えとは?」	【家庭科向け】 ★「生活設計とリスクへの備え」 ★「事例から考えるリスクマネジメント」 【公民科向け】 ★「自助・共助・公助について考えよう」	1 生活設計の重要性 5 生活設計と生命保険
【全科目共通】 <中学校・高等学校向け> ★「成年になるということ」 ★「生活設計とリスク管理」(A4判、24ページ) ☆2023年度 提供部数 10,000部		

消費者啓発・情報提供活動

●「ほけんのキホン for Beginners」による若年社会人に対する教育

若年社会人向けの生活設計・生活保障教育の一環として、専門高校等の主に卒業を控えた生徒や保健所・保健センター等を通じた子育て世代を対象に、「ほけんのキホン for Beginners」を無償配布しました。あわせて、本冊子による解説講座を開催しました。

☆2023年度 <頒布部数> 148,953部

<解説講座> 専門高校等の主に卒業を控えた生徒:31校・37回開催、子育て世代:7か所・9回開催

*上記記載の「専門高校等の主に卒業を控えた生徒を対象とした講座」はP7の生命保険実学講座の実績回数に、「子育て世代向けの講座」はP7の生命保険学習会の実績回数に、それぞれ含まれます。

●冊子「ほけんのキホン for Beginners」(A5判、12ページ)



【高校生・新社会人向け】



【子育て世代向け】



消費者団体等との連携・交流活動

●消費生活相談員等への情報提供

・相談員等を対象とした勉強会の実施

1) 相談員勉強会

各地の消費者行政機関の窓口等で相談業務に携わる消費生活相談員や消費者団体が行う生命保険の勉強会等に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2023年度 8回開催、147名受講

2) 相談員等の地域別講習会

相談員等への定期的な情報提供機会を拡大することを目的に、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会とそれぞれ連携し、地域別講習会を開催しています。

☆2023年度 9回開催、159名受講

3) 暮らしの設計講習会等

日本消費者協会とタイアップし、消費生活コンサルタント等を対象に、生命保険に関する情報提供と相談業務に役立つ有益な知識の付与を目的に、1983年度以降毎年開催しています。また、「消費生活コンサルタント養成講座」への講師派遣も行っています。

☆2023年度 2回開催、15名受講

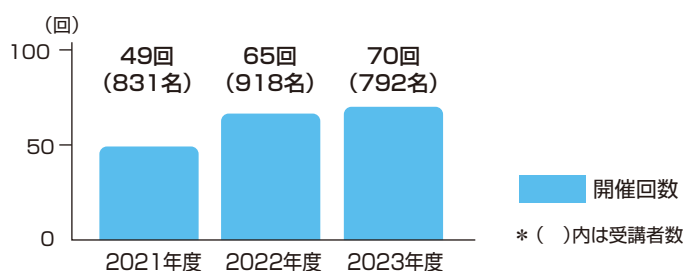
*消費生活コンサルタントは、日本消費者協会が主催する消費生活コンサルタント養成講座の修了者

4) 消費者行政等との意見交換会の場を活用した勉強会

全国54地域で実施する消費者行政等との意見交換会の場を活用し、行政担当者や消費生活相談員に対して勉強会を開催しています。

☆2023年度 51回開催、471名受講

相談員等対象の勉強会 開催回数・受講者数



※ P9、P10「相談員等を対象とした勉強会の実施」に記載の1)～4)の合計

・「生命保険・相談マニュアル」の提供

消費者からの相談業務に携わる消費生活相談員に役立てていただくことを目的として1985年の初版作成から改訂を重ねています(最新版:2021年9月改訂版)。また、相談員等を対象とした勉強会でも積極的に本マニュアルを使用し、活用促進を図っています。

- 「生命保険・相談マニュアル」
(A4判、212ページ)



ホームページの
「消費生活相談員向けコンテンツ」
でも「生命保険・相談マニュアル」の
全ページを閲覧できます。

●消費者団体及び各種団体等との連携・交流

・消費者団体等との交流

国民生活センター、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会等の消費者団体との意見交換会に出席し、連携強化を図っています。

・日本消費者教育学会との連携

消費者教育の発展を目的に、日本消費者教育学会が推薦する消費者教育に関する優れた研究に対し、副賞として「生命保険文化センター賞」を授与しています。

2023年度受賞者: 加賀 恵子氏(国立大学法人 弘前大学)
高橋 義明氏(明海大学)

消費者啓発・情報提供活動

出版活動

生活設計、生命保険、年金等に関する最新かつ適切な情報を、各種小冊子を通じて提供しています。2023年度の頒布部数の合計は約9.9万部（電子書籍を含む）となり、多くの方にご利用いただいています。ホームページ「消費者向け出版物（小冊子）の紹介」のページでは各冊子の目次や特徴等を紹介しています。

小冊子紹介
ページはこちら



イラストでわかる生命保険 ほけんのキホン

〈2022年6月改訂〉

生命保険の仕組みや活用方法等が基礎からわかるよう、やさしく解説した基本書です。

☆2023年度の頒布部数 10,934部

（B5判、64ページ、頒価200円。税込価格、以下同じ）



遺族保障ガイド -『万一』に備える生命保険活用術-

〈2023年11月改訂〉

万一の死亡に備えて遺族年金等の公的保障や企業保障をはじめ、個人で備える生命保険の活用方法、相続・遺言・生前贈与等について解説しています。

☆2023年度の頒布部数 12,021部

（B5判、56ページ、頒価200円）



ねんきんガイド -今から考える老後保障-

〈2023年7月改訂〉〈2024年6月改訂〉

公的年金制度の基礎知識と、個人年金保険の仕組み等について、事例や図表を用いて解説しています。

☆2023年度の頒布部数 27,840部

（B5判、68ページ、頒価200円）



医療保障ガイド -病気やケガに備える生命保険活用術-

〈2022年10月改訂〉

病気やケガで入院や手術をした場合の自己負担の仕組み、6つの事例でみる入院費用、医療費等に備える生命保険の活用方法を解説しています。

☆2023年度の頒布部数 7,920部

（B5判、56ページ、頒価200円）



介護保障ガイドーこれからの介護リスクに備えるためにー

〈2021年7月改訂〉〈2024年10月改訂予定〉

公的介護保険制度の基礎知識や介護サービス利用時の費用、生命保険会社の介護保険の仕組み等について、事例や図表を用いて解説しています。

☆2023年度の頒布部数 4,815部

(B5判、52ページ、頒価200円)



知っておきたい 生命保険と税金の知識

〈2024年4月改訂〉

生命保険に関する税金について、事例をもとに、税金の種類・計算方法をわかりやすく解説しています。

☆2023年度の頒布部数 12,588部

(B5判、60ページ、頒価200円)



ライフプラン情報ブックーデータで考える生活設計ー

〈2024年1月改訂〉

ライフイベント(結婚・出産・育児・教育・住宅取得)や、いざという時(死亡・病気・ケガ、老後、介護)に備える上で参考となる情報をまとめたデータ集です。

☆2023年度の頒布部数 14,602部

(B5判、60ページ、頒価200円)



定年Go!ー40代・50代で考えるセカンドライフー

〈2023年4月改訂〉

40代以降の会社員や公務員の方を対象に、定年後を見据えた生活設計や生命保険の活用方法をわかりやすく解説しています。

☆2023年度の頒布部数 8,304部

(B5判、60ページ、頒価200円)

小冊子のお申込みは

ホームページ「消費者向け出版物(小冊子)の紹介」のページでお申込みいただけます。
また、FAX・郵送(ホームページに申込用紙あり)でお申込みいただくことも可能です。
(送料は別途ご負担いただきます。)

お問い合わせ TEL(0570)062-862 (9:00~17:00 土・日・祝日、年末年始を除く)

次の書店(一部の店舗)でも取り扱っています。

Amazon、紀伊國屋書店、ジュンク堂書店、丸善、有隣堂

小冊子の電子版をAmazon Kindleストアで販売しています。

消費者啓発・情報提供活動

ホームページによる情報提供活動

●ホームページによる情報提供の充実

2021年度	ホームページの全面リニューアルを実施、ホームページの作成・更新作業を簡便化できるCMS(Contents Management System)を導入
2022年度	・ 公的年金制度の改正に対応し「e-ライフプランニング」を更新 ・ 「ひと目でわかる生活設計情報」「生命保険を知る・学ぶ」の内容充実
2023年度	新規コンテンツ「生命保険の種類(主契約・特約・その他)」を公開、主契約17種類、特約23種類、その他6種類の生命保険商品に関する説明を掲載

生命保険の種類
(主契約・特約・その他)は
こちら

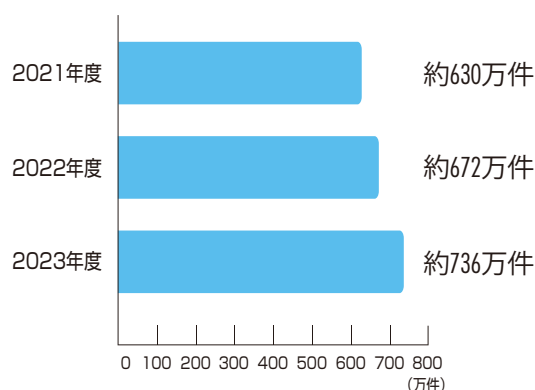


ホームページ (<https://www.jili.or.jp/>)

ホームページは
こちら



ホームページの年間アクセス件数



* アクセス件数は、2022年度まではユニバーサルアナリティクス、2023年度からはGoogle アナリティクス4で計測した数値。

●メールマガジンの配信

消費者、消費者行政関係者、学校関係者、出版物申込者等にタイムリーに適切な情報提供を行うため、生命保険や生活設計、社会保障制度や税制改正等の情報を掲載したメールマガジンを月2～3回(年間39回)配信しました。

登録は、ホームページの「メールマガジン」からお願いします。

☆2023年度末の登録者数 29,683名

メールマガジンの
登録はこちら



●「WEBマガジン」の掲載

消費者関係団体職員、大学講師及び税理士等による生命保険や生活設計、社会保障制度等に関する「エッセイ」と、中学校・高校における生活設計教育や金融教育等の授業実践事例を紹介する「教育の現場から」を掲載しました(「エッセイ」12回、「教育の現場から」5回掲載)。

●WEBシミュレーションツール「e-ライフプランニング」の公開

消費者の生活設計意識の向上とライフステージに応じた生活設計をサポートするため、生年月日等の基本情報とともに具体的な収入・支出項目を入力することで、現在のライフステージにおけるライフプランを簡単に作成することができる「e-ライフプランニング」を公開しています。

動画・X(旧Twitter)による情報提供

冊子やホームページで提供している情報をもとに、生命保険契約や税金、若者世代向けや子育て世代向けの保障に関する動画などを当センターYouTube公式チャンネルで公開しています。また、プレスリリースの内容を中心にX(旧Twitter)への投稿による情報発信を行っています。



YouTube
公式チャンネルは
こちら



公式
X(旧Twitter)は
こちら

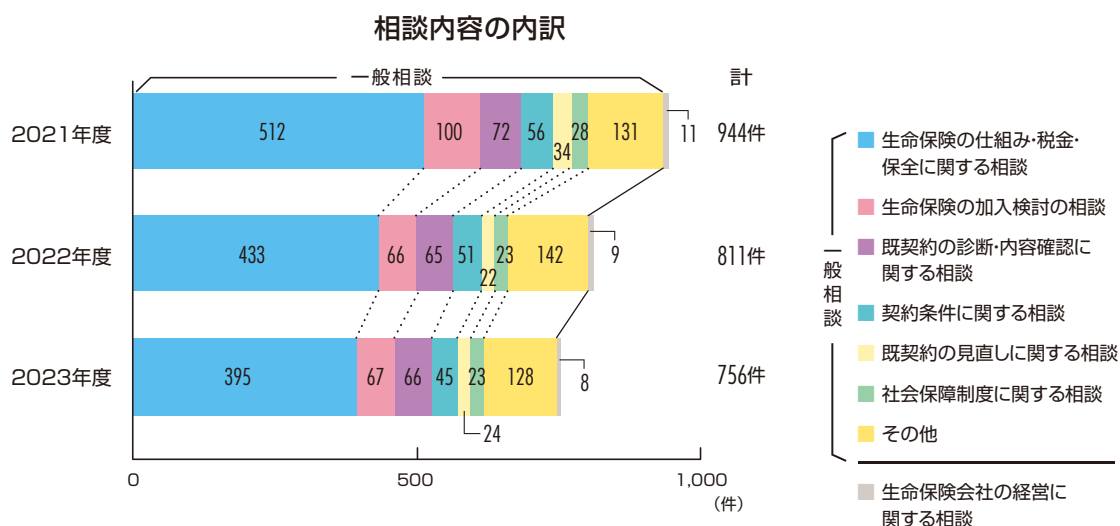


相談対応活動

消費者からの生命保険に関する相談に対し、公正・中立な立場から情報提供と助言を行っています。内容としては、「生命保険の仕組み・税金・保全に関する相談」が過半数となっています。寄せられた相談は集計分析のうえ「生命保険相談レポート」にまとめ、上期版・年度版の年2回発行しています。

*「生命保険相談レポート」はホームページでご覧いただけます。

*2020年度から、新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として来所による相談の受付を休止していましたが、2023年5月より再開しています。



生命保険に関する一般的なご相談は

電話・来訪による相談を受け付けています。

相談電話

TEL(03)5220-8520

9:30～16:00(土・日・祝日、年末年始を除く)

来訪相談

予約制(ご予約される場合は、上記電話相談窓口までご連絡ください)

10:00～16:00(土・日・祝日、年末年始を除く)

生命保険各社の商品パンフレット、ご契約のしおり(定款・約款)、ディスクロージャー誌等の資料を取りそろえており、閲覧いただくことができます。

学術振興事業

保険研究の活性化に向けた取り組み

●研究会

学識者、弁護士、生命保険業界実務家等をメンバーとして、保険に関する研究会を運営しています。現在、対面及びオンラインで研究会を実施しています。

保険事例研究会 <東京、大阪>

生命保険を中心とした保険全般に関する最新の判例について研究。

座長 東京：山下 友信氏(東京大学名誉教授)

大阪：竹瀨 修氏(立命館大学法学部教授*)

*2023年度当時(2024年4月から立命館大学法学部特任教授)

☆2023年度 東京・大阪でそれぞれ9回開催

《テーマ例》「精神病による入院の支払事由該当性」

「先進医療特約の重複多数加入による重大事由解除」

生保・金融法制研究会 <大阪>

生命保険・金融に関する法制全般について研究。

座長 洲崎 博史氏(同志社大学大学院司法研究科教授)

☆2023年度 5回開催

《テーマ例》「金融商品取引法等の一部を改正する法律を踏まえた金融経済教育に係る動向」

生命保険会計研究会

国際会計基準審議会(IASB)における審議等を踏まえつつ、生命保険会計や会計全般について研究。

座長 弥永 真生氏(明治大学専門職大学院会計専門職研究科専任教授)

☆2023年度 5回開催

《テーマ例》「経済価値ベースのソルベンシー規制等の状況」

生保関係法制研究会<東京>

生命保険を中心とした金融関連法について研究。

座長 野村 修也氏(中央大学法科大学院教授)

☆2023年度 6回開催

《テーマ例》「生命保険契約と相続法との交錯問題の検討」

生命保険基本判例研究会

生命保険各社の次代を担う中堅職員を対象に、基本的な保険判例の理解力と生命保険約款解釈の基礎的能力の向上を図り、育成に寄与することを目的として基本的な判例について研究。

指導者 潘 阿憲氏(法政大学法学部教授)
 山下 典孝氏(青山学院大学法学部教授)
 遠山 聡氏(専修大学法学部教授)
 岡野谷 知広氏(河村法律事務所弁護士)

☆2023年度 8回開催(2年間16回で1シリーズ)

《テーマ例》「保険金受取人の変更(保険法前後の規律、遺言による変更)」

家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会

〈2023年4月〜〉

多様なライフコースを前提とした生命保険の役割、市場、商品や加入経路等の変化を捉えるべく、代表的な標準モデルではない層(生涯独身者や離別者など)にも着目し、必要とする保障や支援について幅広く検討。

座長 山田 昌弘氏(中央大学文学部教授)

☆2023年度 6回開催

《テーマ例》「『家族のリスク化と生活保障』ー生命保険との関わり観点からー」

●研究助成

生命保険及びこれに関連する研究支援を目的に、若手研究者及び一般研究者(教授等)を対象に助成金を支給しています。

	2021年度	2022年度	2023年度
若手	15件	11件	8件
一般	4件	2件	5件

2021年度に研究助成を行い2022年度に発表された成果論文を対象に「最優秀論文賞」「優秀論文賞」「研究奨励賞」の審査を行いました。が、いずれも該当者がありませんでした。

学術振興事業

学術交流の促進に向けた取り組み

●保険学セミナー・保険学セミナー懇談会 <東京、大阪>

「保険学セミナー」は大学研究者の研究発表・討議の場として、また、「保険学セミナー懇談会」は大学研究者への生命保険業界情報の提供の場として、それぞれ運営しています。現在、対面及びオンラインでセミナーを実施しています。

幹事 東京：金岡 京子氏（東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門教授）*

*2023年11月まで

得津 晶氏（一橋大学大学院法学研究科教授）**

**2023年12月から

柳瀬 典由氏（慶應義塾大学商学部教授）

大阪：原 弘明氏（関西大学法学部教授）

石田 成則氏（関西大学政策創造学部教授）

☆2023年度 保険学セミナー及び保険学セミナー懇談会を東京、大阪でそれぞれ年6回開催

《テーマ例》（保険学セミナー）

「金融リテラシー教育における『保険』を用いたパフォーマンス評価の開発」

「生命保険契約における死後事務委任費用の検討」

（保険学セミナー懇談会）

「四半期開示の制度見直しと今後の展望」

「保険会社における生成AIの活用と法的課題」

●公開講演会

一般消費者及び生命保険業界関係者を対象に、生命保険及び関連分野に関する動向等の情報提供を目的とした講演会を、会場参加とオンライン参加併用で2024年1月に開催しました。

テーマ：「人的資本経営の真意と企業が採るべき人事戦略」

講師：守島 基博 氏（学習院大学教授・一橋大学名誉教授）

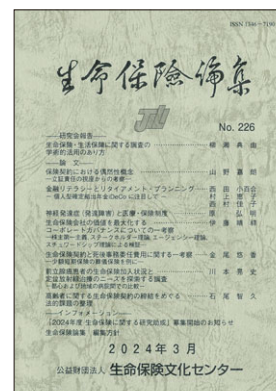


情報提供活動

●生命保険論集

保険学の発展に資することを目的に、生命保険を中心とした保険全般に関する研究論文集を発行しています。

☆2023年度は6月、9月、12月、3月の4回発行(年間6,000円。税、送料込)



●生命保険判例集

保険法の研究、保険会社の実務やコンプライアンス推進に資することを目的に、生命保険判例集を発行しています。

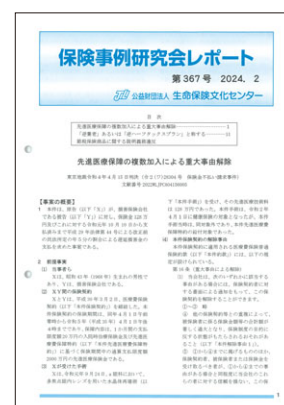
☆2024年2月、「生命保険判例集第27巻」発行
(2017～2018年の判例108件収録、
CD-ROM 870ページ、頒価10,000円 税込、送料別)



●保険事例研究会レポート

「保険事例研究会」の成果をレポート形式で発行しています。

☆2023年度は9回発行(年間6,000円。税、送料込)

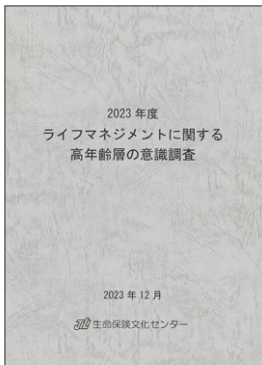


各出版物のお申込みは、12ページ記載の「ホームページ、FAX、郵便」で承ります。

●WEB版「生命保険用語英和・和英辞典」

ホームページに掲載しているWEB版「生命保険用語英和・和英辞典」についてメンテナンス(新語の掲載、掲載語の修正)を行い、4項目掲載しました。

調査・研究活動



(A4判、235ページ、
頒価 2,200円 税込)

「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査」(第2回)

多様化する長寿社会に対する高年齢層の考え方、生活の実態・意向等を把握し、これからの長寿社会のあり方を検討することを目的に、2020年から実施しています。

2023年度に行った調査結果は以下のとおりです(報告書12月発行)。

【調査設計の概要】

(1) 調査地域	全国(200地点)
(2) 調査対象	60歳以上の男女個人
(3) 回収数	2,084
(4) 抽出方法	層化二段無作為抽出法
(5) 調査方法	留置調査(訪問留置、訪問回収法)
(6) 調査時期	2023年4月6日～5月28日

《新聞等への掲載》

時事通信(2023年12月21日)、奈良新聞(2023年12月28日)、
伊勢新聞(2023年12月31日)、上毛新聞(2024年1月31日)他

【主な調査結果】

* 詳しくはホームページをご覧ください (<https://www.jili.or.jp/>)

●経済的不安は「介護保障」「老後保障」「医療保障」の順で高い

生活保障に関する不安について尋ねたところ、最も不安感が高いのは「自分の介護への経済的不安」(65.9%)であり、「退職後の生活資金不安」(60.6%)、「自分の病気やケガへの経済的不安」(59.6%)と続いており、生活保障面において介護や健康に関しての不安意識は高い。

生活保障不安 (%)

	N	退職後の 生活資金不安	自分の病気・ケガ への経済的不安	自分の介護への 経済的不安	自分が万一の 際の経済的不安
2023年	2,084	60.6	59.6	65.9	43.6
2020年	2,083	58.5	61.9	66.9	41.9

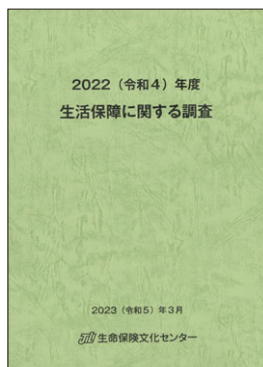
●人生全般において後悔している事項は「学び」「貯蓄」「運動」の順

これまでの人生を振り返って「しておけばよかった」と思う項目についてみると、「学び」が 57.1%と最も多く、次いで、「貯蓄」が 54.2%、「運動」が 43.6%の順となっている。

人生全般に関する後悔【「思う」の回答率】 (%)

	N	もっと 運動をして おけば よかった	もっと 食生活を 気遣えば よかった	もっと 生活習慣を 見直せば よかった	もっと 学べば よかった	もっと 仕事に 取り組み よかったです	もっと 貯蓄を 行えば よかった
2023年	2,084	43.6	34.5	38.1	57.1	25.9	54.2
		もっと 保険等に 加入すれば よかった	もっと 投資を 行えば よかった	もっと 家族との時間を 大切にすれば よかった	もっと 友人との時間を 大切にすれば よかった	もっと 地域などの コミュニティーに 参加すれば よかった	もっと ひとりの時間を 大切にすれば よかった
		19.7	14.1	38.3	28.6	18.7	22.3

●判断能力低下時に、家族や成年後見人に望む金融資産の取扱い方は、「適切に運用する」が31.9%、「そのまま保持する」が15.7%



(A4判、353ページ、
頒価 3,000円 税込)

「生活保障に関する調査」(第16回)

人々の生活保障に対する考え方、自助努力による準備の実態や意識等を3年ごとに時系列で把握することを目的に、1987年から実施しています。

2022年度に行った調査結果は以下のとおりです(速報版10月、報告書3月発行)。

〔調査設計の概要〕

(1) 調査地域	全国(400地点)
(2) 調査対象	18～79歳の男女個人
(3) 回収数	4,844
(4) 抽出方法	層化二段無作為抽出法
(5) 調査方法	面接調査(一部留置)
(6) 調査時期	2022年4月6日～6月10日

《新聞等への掲載》

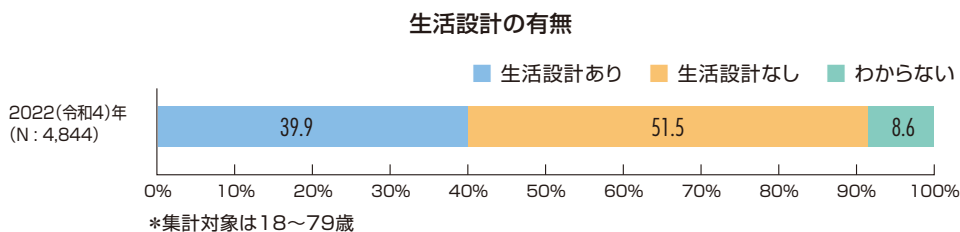
産経新聞(2022年10月24日)、日本経済新聞(2022年11月12日)、徳島新聞(2023年4月5日) 他

【主な調査結果】

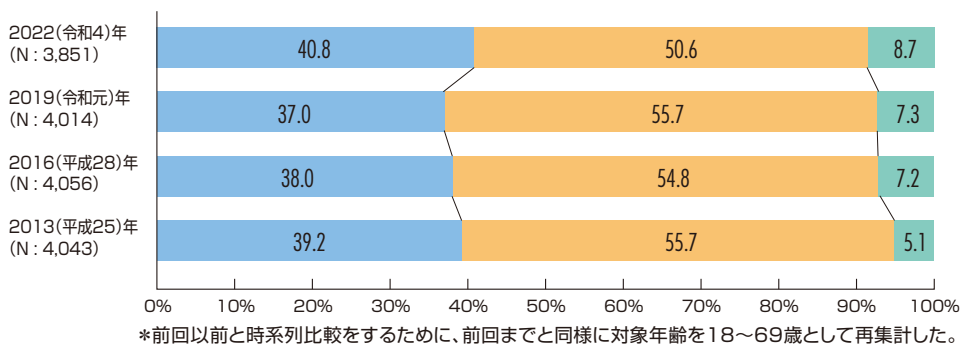
*詳しくはホームページをご覧ください (<https://www.jili.or.jp/>)

●自分自身や家族の将来のために、生活設計を立てている人は約4割

自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計を立てているかをみると、「生活設計あり」と回答した人は39.9%、「生活設計なし」とした人は51.5%となっている。



【参考】前回と比較すると、「生活設計あり」が 3.8 ポイント増加している。



●生活保障に対する不安の割合は医療保障、介護保障、老後保障で高い

●自助努力による経済的準備は、「準備している」が介護保障で約5割

●老後の生活資金をまかなう手段として「預貯金」が71.8%

●加入方法(対面・非対面)に対する意向は、「自宅や職場、窓口で営業担当者に直接会って加入したい」が最も多く59.0%

役員・組織図、活動小史

2024年7月19日現在（敬称略）

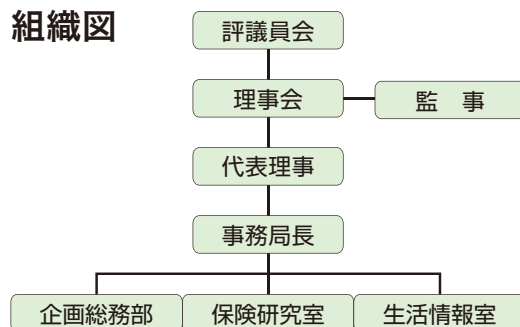
評議員

評議員会会長 家森 信善 神戸大学経済経営研究所教授
 評 議 員 青山 理恵子 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・
 コンサルタント・相談員協会元副会長
 // 加々美 光子 加々美法律事務所弁護士
 // 高橋 宏 一般財団法人石橋湛山記念財団評議員
 // 竹瀨 修 立命館大学法学部特任教授
 // 中林 真理子 明治大学商学部長・教授
 // 西村 周三 京都大学名誉教授、京都先端科学大学名誉教授
 // 西村 隆男 横浜国立大学名誉教授
 // 堀田 一吉 慶應義塾大学教授
 // 清水 博 日本生命保険相互会社代表取締役社長 社長執行役員
 // 隅野 俊亮 第一生命保険株式会社代表取締役社長
 // 高田 幸徳 住友生命保険相互会社取締役代表執行役社長
 // 永島 英器 明治安田生命保険相互会社取締役代表執行役社長

役員

代表理事 浅野 僚也（常 勤）
 理 事 東 珠実（非常勤） 嵯山女学園大学現代マネジメント学部教授
 // 天野 晴子（非常勤） 日本女子大学家政学部教授
 // 石田 成則（非常勤） 関西大学政策創造学部教授
 // 鈴木 みき（非常勤） 光和総合法律事務所シニアパートナー弁護士
 // 得津 晶（非常勤） 一橋大学大学院法学研究科教授
 // 柳瀬 典由（非常勤） 慶應義塾大学商学部教授
 // 山下 徹哉（非常勤） 京都大学大学院法学研究科教授
 // 吉國 浩二（非常勤） 学校法人先端教育機構社会構想大学院大学理事・学長
 // 吉田 朋広（非常勤） 東京大学大学院数理学研究科教授
 // 赤堀 直樹（非常勤） 日本生命保険相互会社取締役専務執行役員
 // 金子 昭太（非常勤） ジブラルタ生命保険株式会社執行役員
 // 国分 勇司（非常勤） ソニー生命保険株式会社執行役員
 // 高尾 延治（非常勤） 住友生命保険相互会社執行役常務
 // 竹内 章二（非常勤） 第一生命保険株式会社取締役常務執行役員
 // 土屋 陽子（非常勤） メットライフ生命保険株式会社執行役 常務
 // 中村 篤志（非常勤） 明治安田生命保険相互会社取締役代表執行役副社長
 // 松木 淳一（常 勤） 生命保険文化センター理事事務局長
 監 事 佐藤 和弥（非常勤） 税理士法人西村会計事務所公認会計士
 // 小野 貴裕（非常勤） 朝日生命保険相互会社取締役常務執行役員
 // 谷中 伸行（非常勤） 大同生命保険株式会社取締役専務執行役員

組織図



活動小史

年度	主な活動内容
2021	6月 公式Twitter開設 6月 「ライフマネジメントに関する高齢者の意識調査」報告書発行 7月 「ほけんのキホン for Beginners」全面改訂 8月 ホームページ全面リニューアル、CMS (Contents Management System) 導入 9月 生命保険論集「人生100年時代におけるライフマネジメント研究会 研究論文」発行 9月 「第20回生命保険に関する全国実態調査」速報版発行（12月報告書発行） 9月 「生命保険・相談マニュアル」改訂 3月 「第3回高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査」報告書発行 3月 中学生作文コンクールサポート動画完成 3月 「生命保険判例集第25巻(CD-ROM)」発行
2022	10月 「第16回生活保障に関する調査」速報版発行（3月報告書発行） 11月 中学生作文コンクール第60回記念会表彰式開催 2月 「生命保険判例集第26巻(CD-ROM)」発行 3月 大学生向け講義展開案（3種類）完成
2023	11月 保険教育に関する包括連携協定締結 12月 「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査（第2回）」報告書発行 2月 「生命保険判例集第27巻(CD-ROM)」発行 3月 参考スライド集完成

財務諸表

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産	123,055,796	91,274,997	31,780,799
2. 固定資産			
1) 基本財産	516,361,410	516,361,410	0
2) 特定資産	249,041,189	240,120,755	8,920,434
3) その他固定資産	35,857,113	40,659,285	△ 4,802,172
固定資産合計	801,259,712	797,141,450	4,118,262
資産合計	924,315,508	888,416,447	35,899,061
II. 負債の部			
1. 流動負債	28,648,932	16,899,995	11,748,937
2. 固定負債	298,567,320	304,601,863	△ 6,034,543
負債合計	327,216,252	321,501,858	5,714,394
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	516,361,410	516,361,410	0
2. 一般正味財産	80,737,846	50,553,179	30,184,667
正味財産合計	597,099,256	566,914,589	30,184,667
負債及び正味財産合計	924,315,508	888,416,447	35,899,061

正味財産増減計算書

2023年4月 1 日から

2024年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	3,354,962	3,321,842	33,120
②特定資産運用益	1,353,255	1,634,283	△ 281,028
③受取会費	512,512,000	504,813,000	7,699,000
④事業収益	21,895,916	27,406,448	△ 5,510,532
⑤受取補助金等	8,100,000	6,700,000	1,400,000
⑥雑収益	957,363	1,771,761	△ 814,398
経常収益 計	548,173,496	545,647,334	2,526,162
(2) 経常費用			
①事業費	453,998,310	463,245,680	△ 9,247,370
②管理費	63,990,519	81,778,948	△ 17,788,429
経常費用 計	517,988,829	545,024,628	△ 27,035,799
当期経常増減額	30,184,667	622,706	29,561,961
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	30,184,667	622,706	29,561,961
一般正味財産期首残高	50,553,179	49,930,473	622,706
一般正味財産期末残高	80,737,846	50,553,179	30,184,667
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	516,361,410	516,361,410	0
指定正味財産期末残高	516,361,410	516,361,410	0
III. 正味財産期末残高	597,099,256	566,914,589	30,184,667

会員会社

2024年6月30日現在(会社名50音順)

アクサ生命保険株式会社
朝日生命保険相互会社
アフラック生命保険株式会社
イオン・アリアンツ生命保険株式会社
SBI生命保険株式会社
エヌエヌ生命保険株式会社
FWD生命保険株式会社
オリックス生命保険株式会社
カーディフ生命保険株式会社
株式会社かんぽ生命保険
クレディ・アグリコル生命保険株式会社
ジブラルタ生命保険株式会社
住友生命保険相互会社
ソニー生命保険株式会社
SOMPOひまわり生命保険株式会社
第一生命保険株式会社
第一フロンティア生命保険株式会社
大樹生命保険株式会社
大同生命保険株式会社
太陽生命保険株式会社
チューリッヒ生命保険株式会社
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社
東京海上日動あんしん生命保険株式会社
なないろ生命保険株式会社
ニッセイ・ウェルス生命保険株式会社
日本生命保険相互会社
ネオファースト生命保険株式会社
はなさく生命保険株式会社
富国生命保険相互会社
フコクしんらい生命保険株式会社
プルデンシャル生命保険株式会社
PGF生命(プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社)
マニユライフ生命保険株式会社
三井住友海上あいおい生命保険株式会社
三井住友海上プライマリー生命保険株式会社
みどり生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社
メットライフ生命保険株式会社
メディケア生命保険株式会社
ライフネット生命保険株式会社
楽天生命保険株式会社

 公益財団法人 生命保険文化センター

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル3階
TEL(03)5220-8510[代表] FAX(03)5220-9090
<https://www.jili.or.jp/>


古紙パルプ配合率60%再生紙を使用


VEGETABLE
OIL INK

2024.7発行/4,500